

各位

日本紙類輸出組合・日本紙類輸入組合

「紙類貿易研修会」 in 東京港 研修記

当組合では、平成29年度事業の一環として、昨年に引き続き両組合共催で、東京港湾施設研修会を9月13日に実施しましたのでお知らせします。

我が国のハブ港化計画の中心をなす東京港最新施設の研修会で、東京港湾施設の海上及び陸上からの施設研修、並びに東京税関本関での研修など当会ならではの豊富な内容でした。

1. 日 程 平成29年9月13日(水)12:00～17:30
2. 概 要 東京港洋上研修(視察船新東京丸)～東京税関本関研修
～大井埠頭コンテナターミナルハンドリング研修
3. 参加人数 35名
4. 研修記

紙類関係者を対象にした研修は、今回で8回目となる。紙類貿易の東京港扱い量は、紙類合計輸出貨物が全国の9.6%(2016年1～12月計 170,605t)、紙類合計輸入貨物が同35.6%(同 592,198t)、また古紙の輸出貨物が同43.3%(同 1,790,256t)となっている。

①研修開始に先立ち、事務局より、「輸出業務のしくみ、輸入業務のしくみ」、「Marine Traffic」 「主要アジア・欧米 紙板紙貿易比較統計」及び「紙類の輸出入実績、パルプ及び古紙の輸出実績」、「国際コンテナ輸送の基礎知識」の資料を配布し説明した。また、研修会のスケジュールについて説明をした。

②東京都視察船「新東京丸」；竹芝棧橋を出発して羽田空港・東京ゲートブリッジ外周までの港内周辺施設の研修であった。大井・青梅のコンテナ埠頭及びその他埠頭の活動状況、諸施設について、担当官による丁寧な説明により理解できた。2020年の東京オリンピックに向け、また豊洲卸売市場移転などの動きが見られた。

③東京税関本関；ビデオにより、輸出入貨物の安全を目的とした人的・物的検査、各種施設、システムなどの説明を受けた。その後、10階の展望室で東京港の施設の説明を受けたのち、展示室を見学した。

④大井コンテナ埠頭「日本郵船バース」研修；ターミナルビル屋上から、ガントリークレーンやコンテナヤードのコンテナ移動状況を研修した。また、東京港のコンテナ埠頭概要の説明も受けた。

研修中、天気にも恵まれ移動もスムーズに進み、当初日程通り終えることが出来た。

初参加者が殆どで、研修終了後、各施設ともに「実際に目で見て仕事内容とつながった。」 「東京税関での通関プロセスのビデオも次回研修に入れてほしい。紙の輸出入の統計から見える経緯やビジネスをめぐる環境変化との関連などをレクチャーしてもらいたい。」といった感想、要望が寄せられた。

以上

資料説明



新東京丸



東京税関



大井コンテナ埠頭

